

小泉内閣の科学技術創造立国への歩み

資料1

平成18年9月22日
科学技術政策担当大臣
総合科学技術会議有識者議員

小泉内閣における科学技術政策の改革

社会・国民に支持され、成果を還元する科学技術を目指し政策を遂行

- 科学技術の発展とイノベーション創出により
 - 環境と経済を両立
 - 国際競争力強化と経済の持続的発展を実現
 - 高齢化社会における健康、安全・安心な国家を実現

総合科学技術会議で大方針(第3期科学技術基本計画)を決め、その下で政策を推進

- 本会議での活発な議論を通じて、イノベーション創出総合戦略などの政策を迅速に立案し実行

科学技術への重点投資とメリハリ付け

- 厳しい財政事情にあっても科学技術は「明日への投資」として重点投資
 - 第3期基本計画で25兆円
- 民間研究開発投資拡大、研究開発促進税制の拡充
- 「選択と集中」の方針の下、限りある財源をSABC付けし予算編成
- 研究開発評価に基づくPDCAサイクルの実行

改革の成果

基礎研究の推進と競争的研究環境の醸成

- 競争的資金の拡充: 過去5年で1.4倍。研究現場の活性化推進。
 - ノーベル賞受賞者: H12白川氏、H13野依氏、H14小柴氏、田中氏で9人に
 - すばる望遠鏡: 地球から最も遠い銀河(129億光年)を発見



イノベーションの創出

- 「イノベーション創出総合戦略」を策定し、「経済成長戦略大綱」へ位置付け
- イノベーションを種から実へ育て上げる仕組みを強化
- 研究者の移動に伴う年金の取り扱い改善など、世界最高水準の頭脳を日本に惹き付ける仕組みの整備を推進
- 日本での治験、臨床研究を促進する環境整備を推進

<イノベーションの事例>

- 垂直磁気記録方式によるハードディスクの小型・大容量化
- 光触媒、電気を通すプラスチックなどの生活や産業への応用

産学官連携の本格化

- 将来の産業の芽を作る「先端融合イノベーション創出拠点」形成開始
- 研究にとどまらず、人材育成においても産学連携の進展

国際協力の推進

- 地球観測サミットの開催
- G8学術会議の共同声明
- アジア地域科学技術大臣会合等政策対話の推進

国立大学、国立研究機関等の法人化

- トップへの裁量権付与など自主的、自律的な経営導入

地域科学技術の進展

- 地域クラスター政策の展開
- 大学を核とした地域再生

知的財産戦略の推進

- 知的財産権の創造・保護・活用に関する体制の抜本的整備

人材育成

- 国際科学オリンピックへの取組強化
- 若手、女性研究者等の活躍の場の拡大

メリハリのある政策遂行

- 分野別推進戦略に基づき、重要な研究開発を厳選。メリハリ付けして推進。

<主な成果例>

【健康増進】

- ヒトゲノム、イネゲノムの国際共同による全解読: 創薬等のポストゲノム研究や産業化の期待
- タンパク質の構造解析: 国際的なデータベースへの登録数約12,000のうち約2,500は日本から
- 重粒子線がん治療の進展: 既に約2,900人が治療

【安全安心】

- テロ関連物質の探知技術等テロ対策に貢献
- 実大三次元震動台: 家屋実物の破壊実験が可能に

【環境と経済の両立】

- 世界最高性能の地球シミュレータ: 世界最高の解像度で2100年までの地球温暖化予測を実現
- 青色LED、白色LEDの開発と普及: 信号機、自動車、家庭用照明等に应用し省エネを推進
- 燃料電池自動車・定置型燃料電池の実用化、電気自動車の開発



【フロンティア】

- H- Aロケット打上げ: 「だいち」、情報収集衛星
- 日本人宇宙飛行士の活躍: H17野口氏で延べ8人に
- 「ちきゅう」: 世界最深の海底下7,000mの掘削を目標に始動



第3期科学技術基本計画（H18年3月閣議決定）に基づき、科学技術創造立国に向けた更なる政策の展開